



Creating the Future of Energy

個人投資家のみなさまへ

(2023年3月期 個人投資家向け説明)



株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
(証券コード：6674)

2022年5月28日

会社概要	03
事業を取り巻く環境	06
事業概要・強み・取り組み	10
株主還元	31
SDGsへの貢献	33

会社概要

会社名

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
※純粋持株会社

設立

2004年4月1日
※日本電池（1917年設立）とユアサコーポレーション（1918年設立）が経営統合

本社

京都市南区

資本金

330億円

連結売上高
(2022年3月期)

4,321億円

連結従業員数
(2022年3月末)

13,571名

上場市場

東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6674）



代表取締役 取締役社長 村尾 修

価値創造を通じた、持続可能な成長を目指して

当社グループに関連の深い社会課題

- 持続可能な開発目標 (SDGs) の達成
- カーボンニュートラルの加速
- 社会インフラの重要性の拡大

機会
リスク

企業理念 「革新と成長」
GS YUASAは、社員と企業の「革新と成長」を通じ、人と社会と地球環境に貢献します。

事業プロセス

中期経営計画

事業と社会のサステナブルグロース (持続可能な成長) を目指します。
CSR課題を事業戦略に取り込んだビジネスプロセスの確立

セグメント別の事業戦略

自動車電池事業 (国内・海外)	
産業電池電源事業	
車載用リチウムイオン電池事業	
特殊電池およびその他事業	

鉛蓄電池事業 収益力強化・販売拡大
リチウムイオン電池事業 成長のための先行投資

重要なCSR課題

E Environment 持続可能な地球環境への貢献
S Social 人権の尊重と社会への貢献
G Governance 公正・透明・迅速なグループ全体のカバランスの推進

価値創造の源泉

基幹である鉛蓄電池事業による安定した財務基盤	信頼と実績に基づく技術開発力と市場開発力	リチウムイオン電池事業を支える高度な技術力	パートナーシップが支えるブランド力と高い競争力	企業理念を共にし、技術を維持・伝承する従業員	企業に根付くCSR
------------------------	----------------------	-----------------------	-------------------------	------------------------	-----------

社会課題の解決による成長

- 利益の最大化
- 資産効率化による株主価値の最大化
- 技術力の向上によるイノベーション・新事業の創出
- 従業員の成長と雇用維持・拡大
- サプライヤーとの関係強化による安定的な供給体制の確保

長期ビジョン
新たな価値を創造し続けるエネルギー・デバイス・カンパニーへ

経営資源への投資・還元

事業を取り巻く環境



1

環境対応車の普及

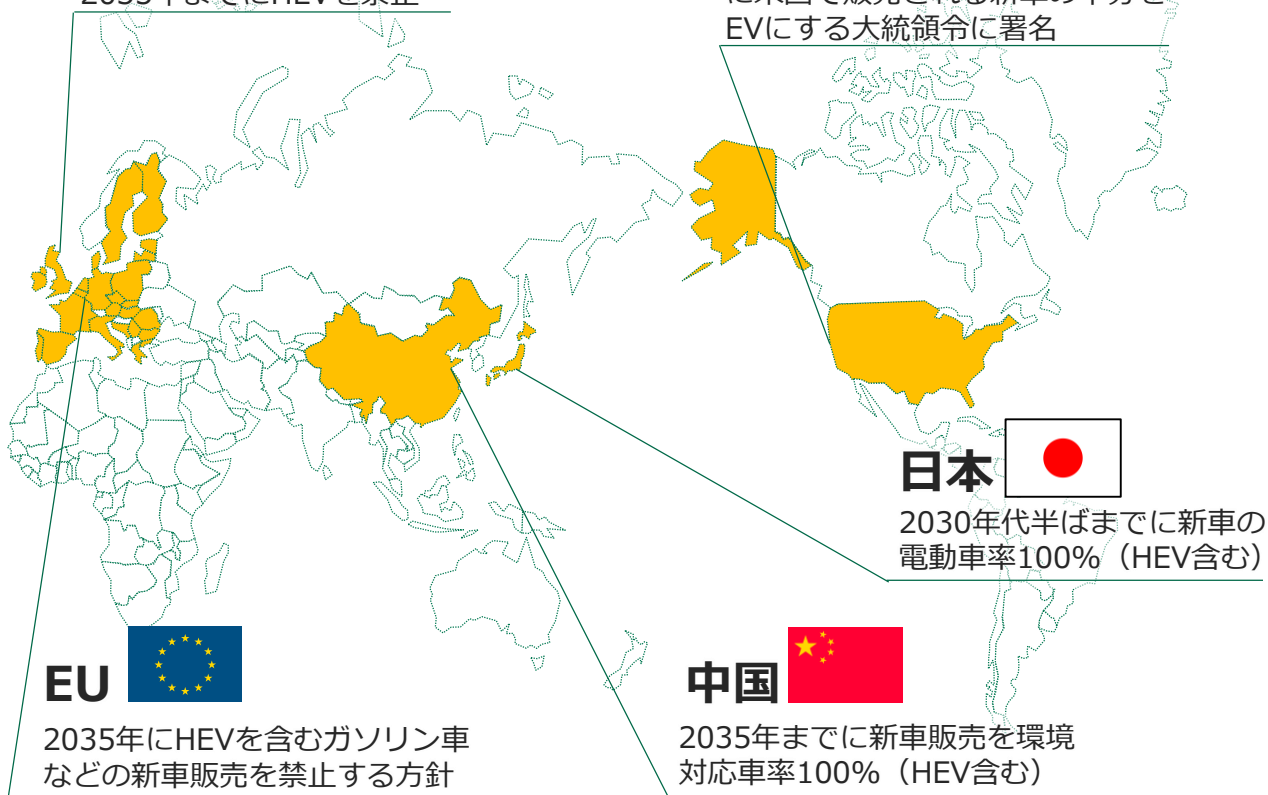
世界各国でCO₂排出や燃費規制が強化され、環境対応車の普及が促進されています

イギリス

2030年までにガソリン車を
2035年までにHEVを禁止

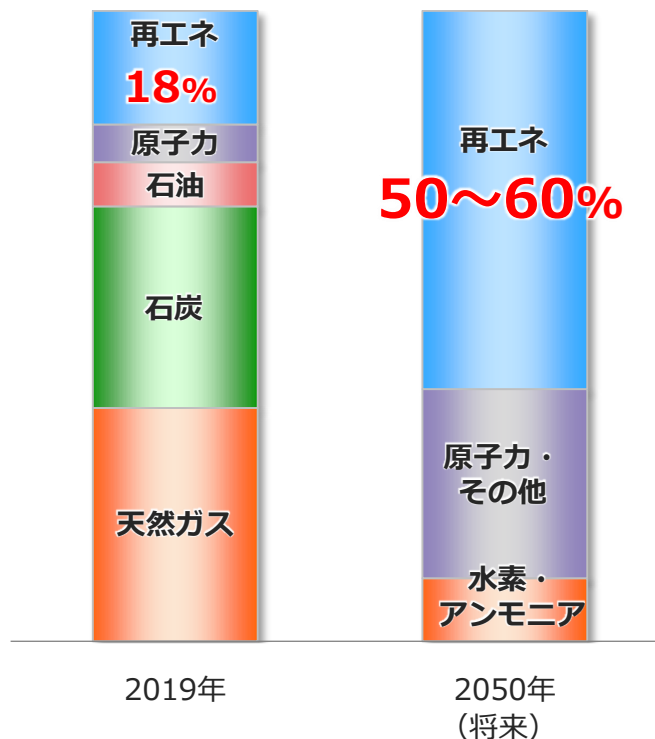
アメリカ

バイデン大統領が、2030年までに米国で販売される新車の半分をEVにする大統領令に署名



石油や石炭など限りある化石燃料に代わり、再生可能エネルギーの利用拡大が求められています

再生可能エネルギーの割合



2050年カーボンニュートラル宣言

わが国は、2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを、ここに宣言いたします。

グリーン成長戦略

- ・洋上風力
 - ・自動車・蓄電池
 - ・航空機
 - ・住宅
- など**エネルギー**、**輸送**・**製造**、**家庭**・**オフィス分野**で14分野を設定

2
再生可能
エネルギーの拡大

出典：資源エネルギー庁「2050年カーボンニュートラルの実現に向けた検討」

災害の激甚化・頻発化から、社会インフラを守る電力バックアップの必要が高まっています

3

電力・情報
インフラの強化

津波

過去5年の
激甚災害の適用実績

台風

24件

豪雨

地震

出典：内閣府「過去5年の激甚災害の指定状況一覧」より

事業の概要・強み・取り組み

長期
ビジョン

新たな価値を創造し続けるエネルギー・デバイス・カンパニーへ

中期
経営方針

「モノ・コトづくり」をキーワードに新しい価値創造を通じて、鉛電池事業とリチウムイオン電池事業それぞれの持続的成長に繋がる戦略的な企業活動を行います。

《中期経営目標》

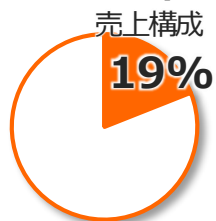
	第五次中期経営計画 目標 (2022年度)	2022年度 業績予想
売上高	4,600 億円以上	5,200 億円
営業利益	280 億円以上	290 億円
ROE (自己資本利益率)	8 %以上	—
総還元性向	30 %以上	—

(注) 上記指標はのれん等償却前利益（営業利益・当期純利益）に対するものです。

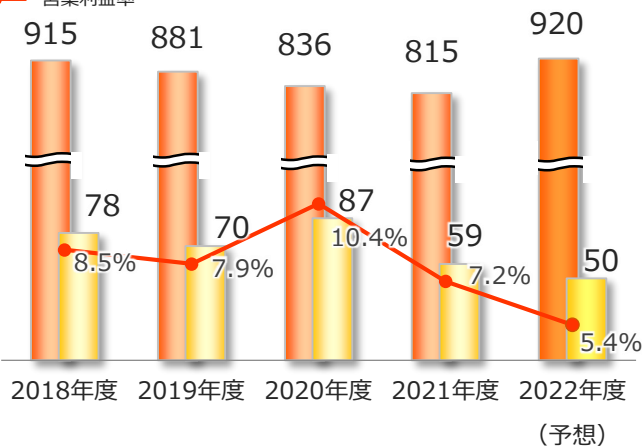
自動車電池（国内）

売上高・営業利益・利益率 (億円)

<2021年度>



売上高
81,494百万円
営業利益
5,878百万円



(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、
営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。



事業特徴


- 2016年10月にパナソニック(株)の鉛蓄電池事業を譲受 (現GSユアサ エナジー)
- EN (欧州統一規格) 電池の新車搭載が増えたことで新車シェアが拡大
- ISS (アイドリングストップ) 車用鉛蓄電池の補修用需要が増加

自動車電池（国内）

アイドリングストップ車用電池（ISS電池）や欧州統一規格電池（EN電池）など鉛蓄電池は常に進化し続けています

技術・開発力
鉛蓄電池の歴史



 **自動車用電池**
の製造開始

1919



(株)ジーエス・ユアサ
コーポレーション設立


2004



EN電池の販売開始

2015

1920

 **自動車用電池**
を生産開始



2009

ISS車用電池の販売開始



自動車電池（国内）

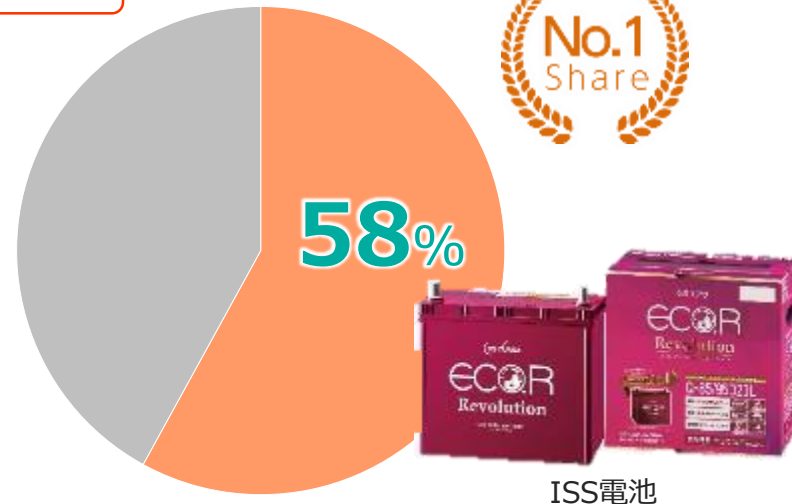
他社に先行して開発した日本仕様の欧州規格電池（EN電池）と高付加価値のアイドリングストップ車用電池（ISS電池）でシェアの拡大と収益力を向上します

□ 日本における自動車用鉛蓄電池のシェア（2021年度）

新車向け



補修向け



(注) 2021年度、自社調べ（輸入電池含まず）

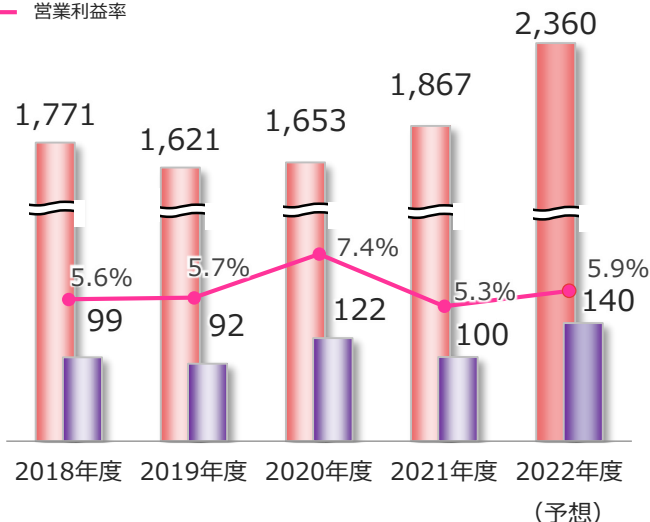
自動車電池（海外）

売上高・営業利益・利益率 (億円)

<2021年度>



売上高
186,743百万円
営業利益
9,965百万円



事業特徴

- 海外売上高の約6割はアジアで、特に東南アジアのシェアが高い
- 自動車・オートバイ用ともに補修用比率が高い
- 鉛蓄電池は重量物で輸送コストがかかるため地産地消が基本
- 未開拓、低シェア地域での拡販を目指す

自動車電池（海外）

世界トップクラスのシェアを誇る
自動車用、オートバイ用鉛蓄電池
地域ごとのニーズに応え続けます

高いグローバルシェア

グローバルシェア

特に成長著しいアセアン
で高いシェアを誇ります



<2021年・当社推定>

高いシェア

アセアンを中心と
した高いシェアと
グローバル
生産供給体制

アセアンを中心にグローバルに展開した生産供給体制



(2021年12月現在)



日本電池、ユアサコーポレーションの
時代からアセアンを中心にグローバル
に生産拠点を展開してきました

自動車電池（海外）

当社シェアの高いアセアンを中心に、市場ニーズに合った製品を投入し、収益力の強化を進めています

タイ・ミャンマー（メコン経済圏）

ミャンマー新会社

ミャンマー新会社を中心としてモーターリゼーションが加速するメコン経済圏で利益拡大を追求します

タイ

技術開発・市場調査

需要が拡大する東南アジアを重要地域と位置づけ、タイのテクニカルセンターで現地ニーズに即した製品開発を行っています

GS Yuasa Asia Technical Center Ltd.

インドネシア

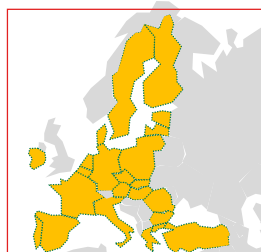
インフラ整備により自動車需要が拡大し、オートバイ需要も回復傾向。新型コロナウイルスの影響があったものの、保有台数の増加もあり補修用の販売強化により利益拡大を追求します

ベトナム

オートバイ市場は好調。設備の省人化、生産性向上により競争力を確保して利益の確保を目指します

自動車電池（海外）

当社シェアが低く販売拡大余地の大きい地域の生産能力を拡大し、シェアの拡大を図ります



トルコ・EU

トルコ新工場



トルコを拠点としてEUのみならず、中近東、北アフリカなど接点のない地域へのブリッジとして地域的利点を生かす

4月28日に連結子会社化を発表

社名	Inci GS Yuasa Aku Sanayi ve Ticaret Anonim Sirketi		
設立	2015年10月		
所在地	トルコ共和国マニサ県		
事業内容	自動車用およびフォークリフト用鉛蓄電池の製造・販売		
出資者 出資比率	変更前		変更後
	株式会社 GSユアサ	50%	60%
	Inci Holding A.S.	50%	40%



インド

インド工場



自動車、オートバイともに需要が大幅に増加傾向。特にオートバイについて大きな需要増が見込め、生産能力を増強して対応

2W

生産
能力

2019年度
240 万個/年間



2023年度
840 万個/年間

4W

生産
能力

2019年度
400 万個/年間



2022年度
630 万個/年間

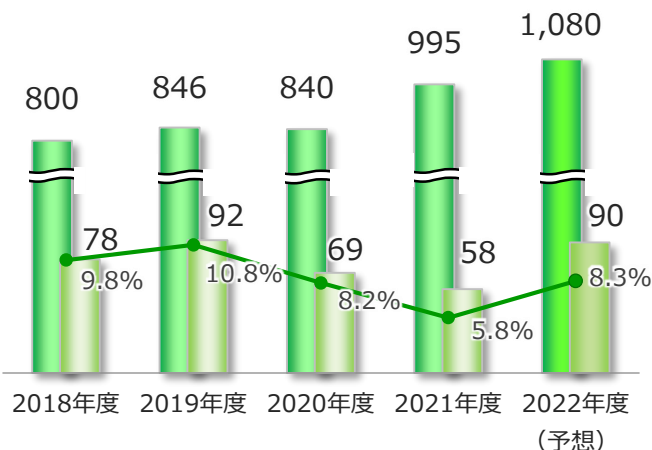
産業電池電源

売上高・営業利益・利益率 (億円)

<2021年度>



売上高
99,465百万円
営業利益
5,775百万円



事業特徴

- 携帯電話基地局や発電所など社会インフラ設備のバックアップ用鉛蓄電池分野でシェアが高い
- 電源システムは受注生産で設計・製造から工事・メンテナンスまでワンストップで行うため、高利益率
- 2021年5月にサンケン電気(株)の社会システム事業を譲受

産業電池電源

日本全国のサービス拠点体制で
ビフォーからアフターまで長期安定的な
収益確保を実現しています

日本全国100か所以上のサービス拠点を展開（産業電池電源）

豊富な
ネットワーク
日本国内の
サービス拠点

開発 設計 製造 販売

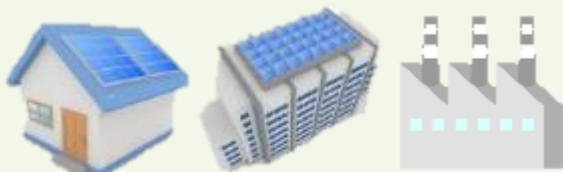
施工 予防保全 更新提案



産業電池電源

グリーン成長戦略を背景として再生可能エネルギーの普及拡大が進む中、蓄電システムの拡販を進めています

電力自家消費時代へ



住宅

集合住宅

工場・事業所

卒FITにより「売電」から「自家消費」へ

太陽光

風力



電力安定化へ



大規模
太陽光発電所



大規模
風力発電所

自然条件による不安定な発電を蓄電池で安定化

2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、産業向け・個人向けの双方でビジネスチャンス

車載用リチウムイオン電池

売上高・営業利益・利益率 (億円)

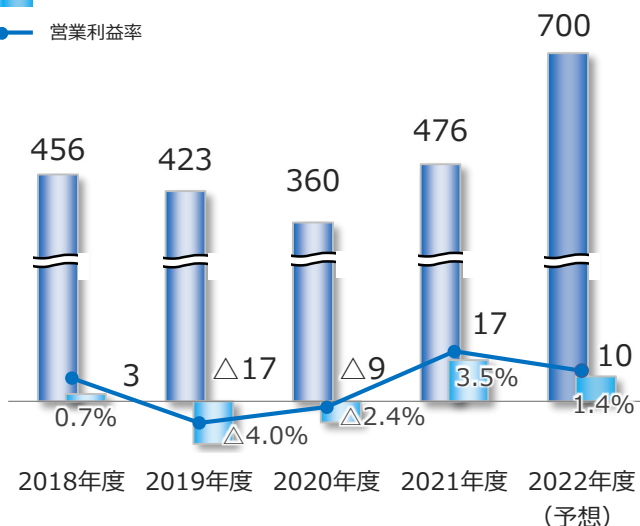
<2021年度>



売上高
47,637百万円

営業利益
1,654百万円

■ 売上高
■ 営業利益
● 営業利益率



事業特徴

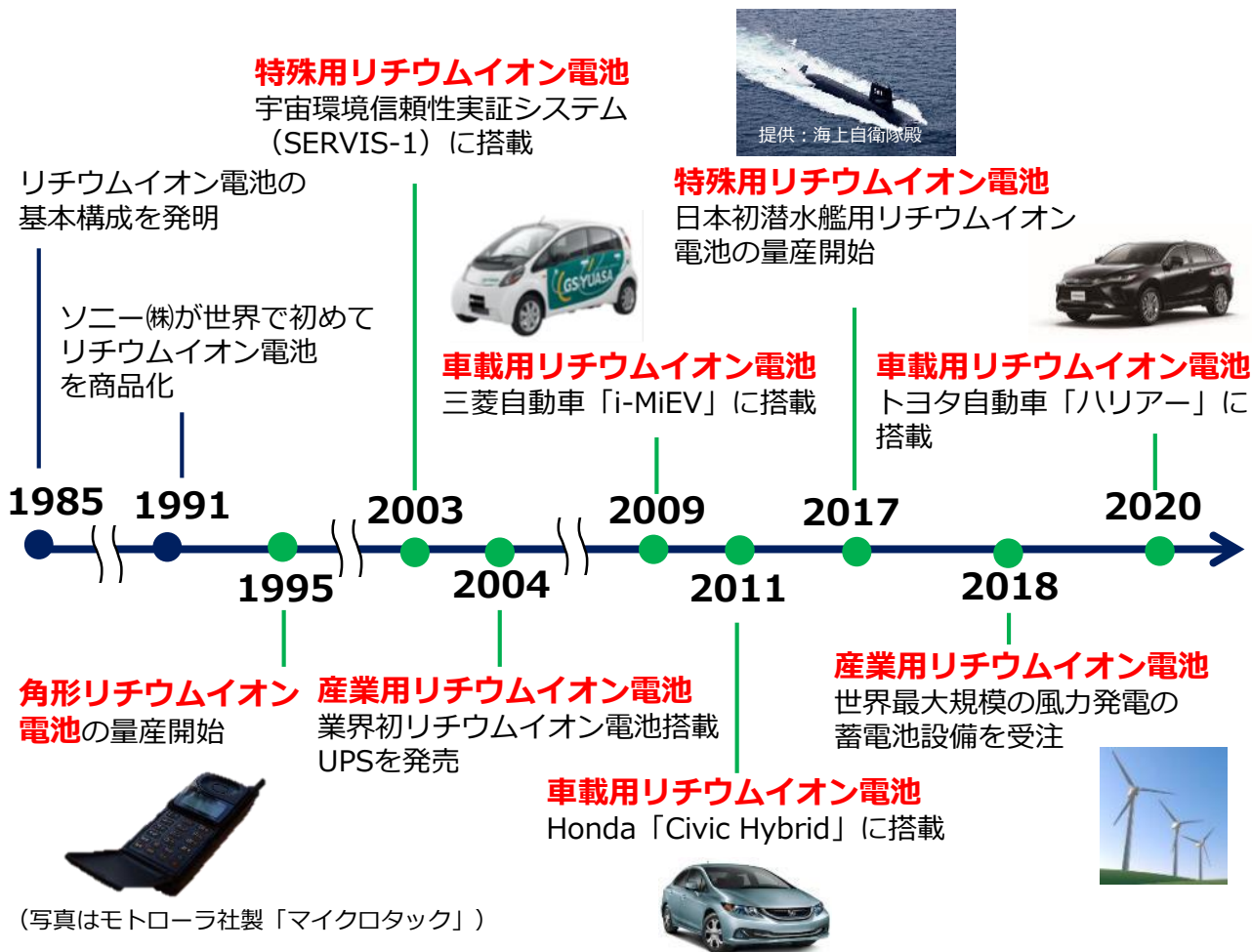
- EV、PHEV、HEV用で求められる性能が異なる
(EV・PHEV用：高エネルギー密度、HEV用：高出力)
- 環境意識が高く、鉛規制が進む欧州で、始動用12V LiBを供給開始
- EV、PHEV用は日中韓の大規模資本による競争が激化
- 日系自動車メーカーを中心としたHEV需要に対応するため生産能力を増強

車載用リチウムイオン電池

1980年代からリチウムイオン電池の研究・開発を行っています

技術・開発力

リチウムイオン電池の歴史



車載用リチウムイオン電池

GSユアサは特徴・用途が異なる3種類の車載用リチウムイオン電池を製造・販売しています

EV・PHEV用

高エネルギー密度

・駆動用



※LEJでは産業用・12V LiBセルの製造も行っています。

HEV用

高入出力性能

・駆動／アシスト用



Blue Energy

始動用（12V）

クランキング性能

・始動用



GS Yuasa Hungary Ltd.

鉛蓄電池

EVやHEVなどの電動車でも鉛蓄電池は1台に1つ搭載（12V LiBは鉛蓄電池の代替品）

(注) 搭載位置や形はイメージです。

車載用リチウムイオン電池

EV市場の急拡大に向けて、第6次中期経営計画以降の本格参入に向けてEVに開発リソースを投入していきます

EV用LiBへの本格参入に向けて

- ・欧州を中心に内燃機車およびHEV規制がグローバルに波及することでEVが急拡大

本格参入に向けて開発リソースを投入

HEV用LiBの増産対応

- ・日系自動車メーカーを中心に30年代半ばまではHEV中心

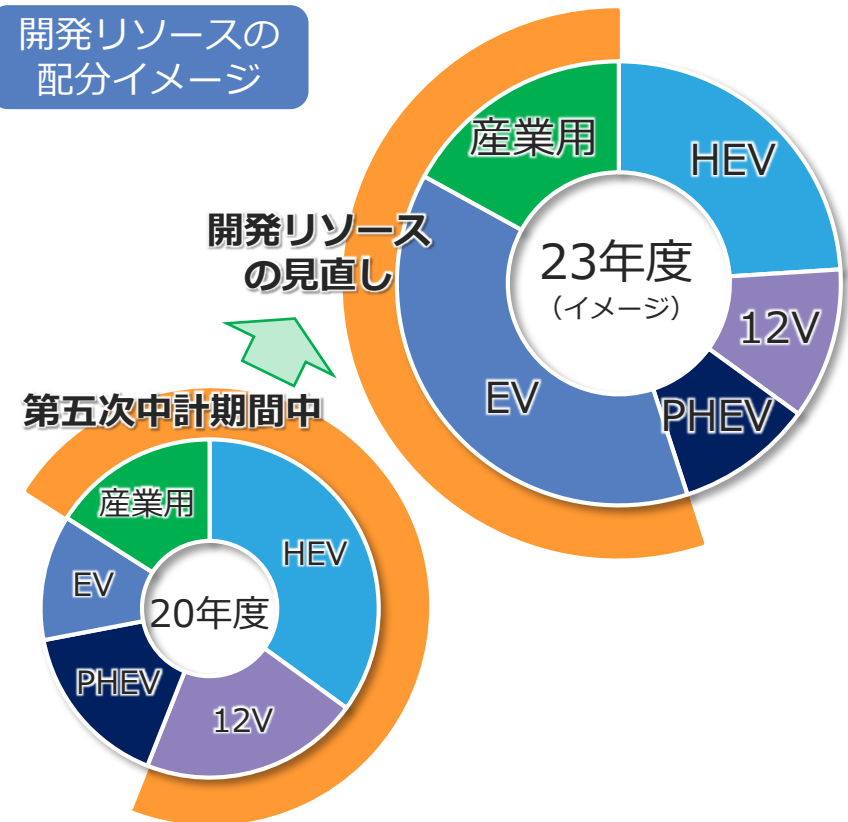
BEC第2工場により生産能力を拡大して
日系自動車メーカーの需要に対応

12V LiB（始動用・補機用）の対応

- ・欧州ELV指令により鉛蓄電池が規制
- ・将来は自動運転の普及により冗長用が拡大

ハンガリーからの納入と、
自動運転の普及に合わせた需要対応

開発リソースの
配分イメージ



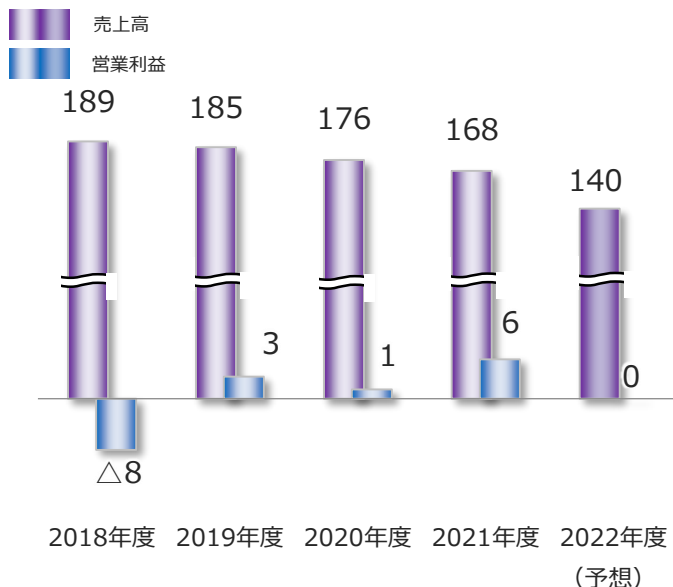
特殊電池およびその他

売上高・営業利益 (億円)

<2021年度>



売上高
16,791百万円
営業利益
579百万円



事業特徴

- 宇宙や航空・深海など特殊環境のフィールドで使用されるため、高性能かつ高品質な製品が求められる
- 電池の種類は多岐にわたり、大容量鉛電池、大型リチウムイオン電池などを取り扱っている

「深海」から「宇宙」までの極限環境

過酷な条件下でも電力を供給し続ける蓄電池を提供し、技術力のさらなる向上を図る

深海から宇宙まで高い信頼性が
求められる極限環境でGSユアサの
リチウムイオン電池が選ばれています

技術・開発力

深海から宇宙まで
極限環境で
選ばれる製品



©JAXA/NASA

国際宇宙ステーション用リチウムイオン電池に採用



©JAXA

温室効果ガス観測技術衛星2号「いぶき2号」



米国ボーイング社「787型機」

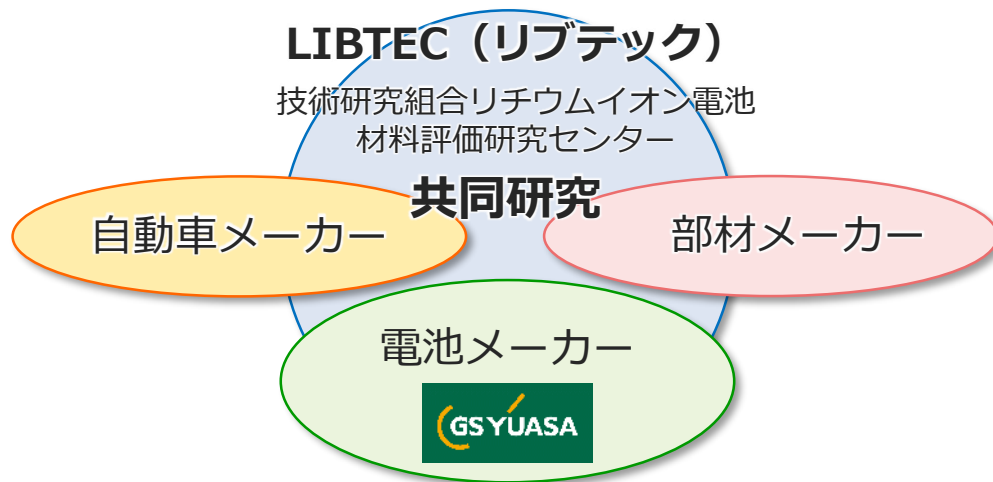


提供：海上自衛隊殿

海上自衛隊向け潜水艦搭載リチウムイオン電池を製造（画像はそうりゅう型潜水艦）

研究開発

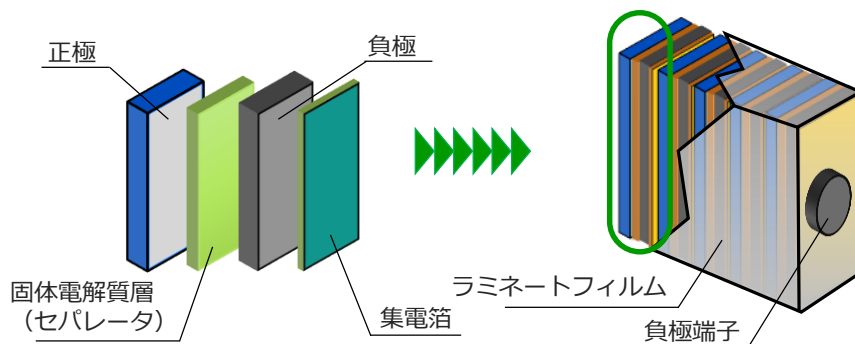
全固体電池はLIBTECでの共同研究に加え、GSユアサ独自でも研究を進めています



全固体電池の研究開発体制

- LIBTECで日系自動車メーカーや部品メーカー、電池メーカーと共同研究
- GSユアサ独自の研究開発

【全固体LiB】



研究開発の目的

- オールジャパンでの研究による中韓メーカーに対する優位性の確保
- 日系自動車メーカーの求める性能にあった電池の研究開発

研究開発

全固体電池は、2020年代後半に特殊用途からの実用化を目指しています

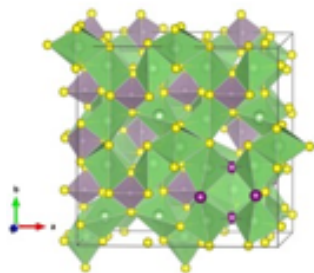
【実用化に向けた主な技術的課題】

- ① 固体電解質のイオン伝導度の向上
- ② 硫化物系固体電解質の耐水性の向上
- ③ 固体電解質と活物質との界面抵抗の低減
- ④ 固体電解質の耐電位性の向上

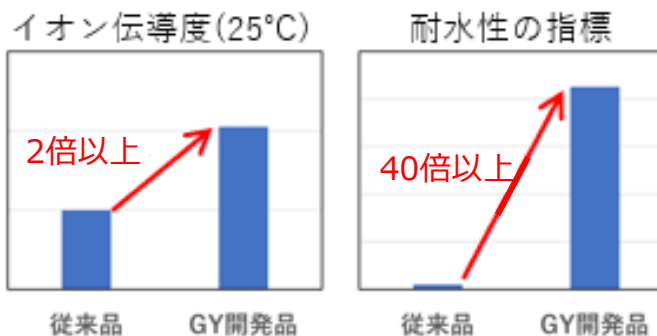
【GSユアサの成果】

大きく改善

計算化学を適用した当社独自の研究において、**新規の硫化物系固体電解質を開発**
⇒電池の性能向上や生産コスト低減が期待でき、**全固体の実用化**に貢献



計算化学
→
実験化学



2020年代後半に特殊用途からの実用化を目指す

研究開発

2019年8月からNEDOの次世代航空機実現に向けたプロジェクトに参画



2019年 経済産業省とボーイング社が
将来の航空機の技術協力にて合意

中間目標

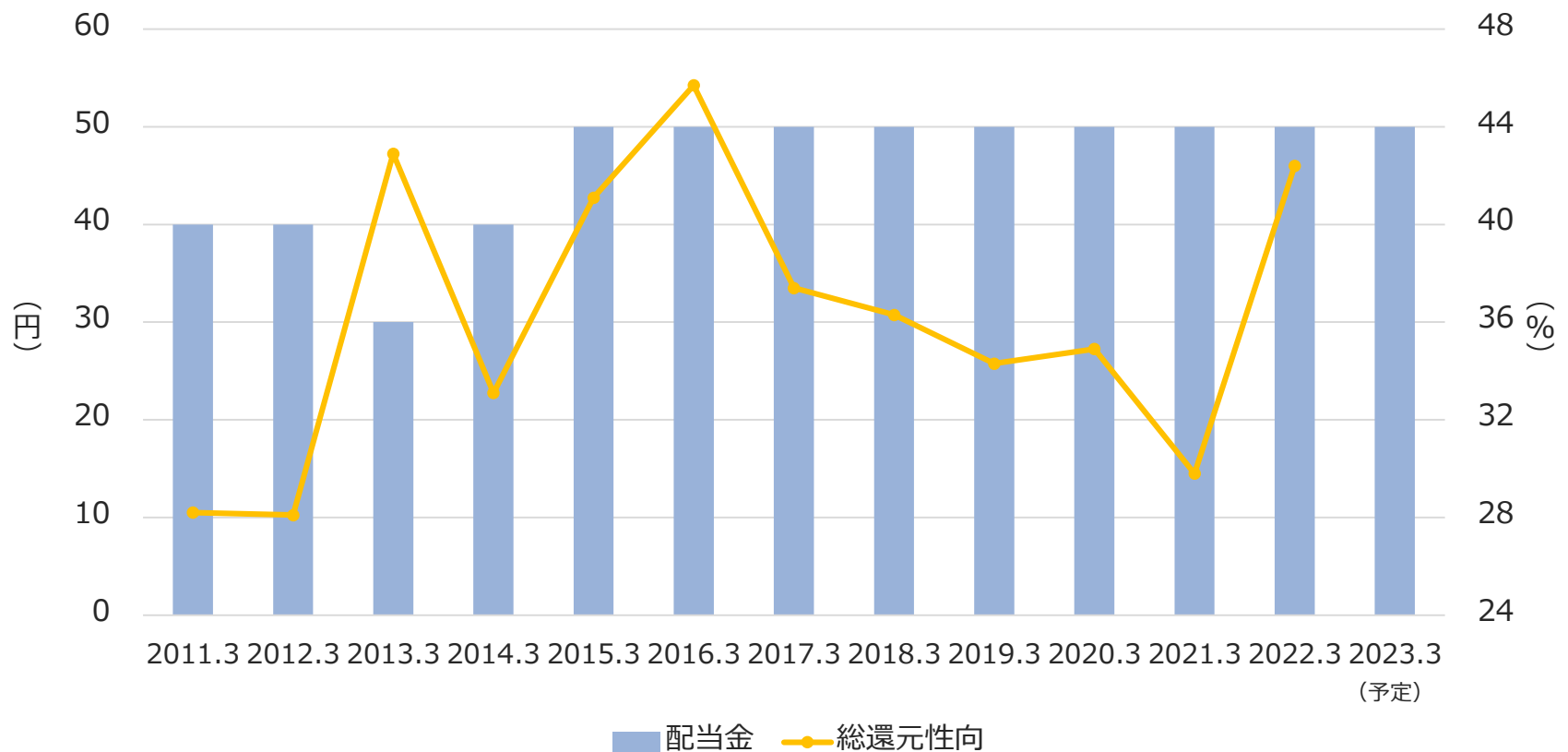
2021年 エネルギー密度**400Wh/kg**級

2019年 NEDO PJによる軽量蓄電池の開発を開始

2011年 シリコン-硫黄電池の開発に着手

株主還元

当社は株主様に対する還元を経営における最重要課題と認識し、第五次中期経営計画でも総還元性向（配当と自己株式による還元割合）30%以上を目標として設定しています。



SDGsへの貢献

製品を通じて持続可能な地球環境への貢献に取り組んでいます

環境配慮製品の
販売比率

実績
(2020年度)
35%

目標値
(2022年度)
35%以上

環境配慮製品（一例）



「ISS車用バッテリー」



「車載用リチウムイオン電池」



「蓄電システム」



環境への 貢献

3 すべての人に
健康と福祉を



6 安全な水とトイレ
を世界中に



7 エネルギーを
みんなに
そしてクリーンに



12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
適応する



社会への
貢献

1 笑顔を増やそう 	3 すべての人に 福祉と幸せを 	4 質の高い教育を みんなに 	5 ジェンダー平等を 実現しよう
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 	8 働きがいをも とめよう 	10 人や国の不平等を なくそう 	12 つくる責任 つかう責任

多様な人材が活躍でき、一人ひとりが やりがいをもって働き続けられる企業を 目指します

2020年
「プラチナくるみん※」
企業として認定



※子育てサポートについて高い水準の取り組みを行う企業として、厚生労働大臣から特例認定を受けることができる制度

障がい者雇用率

2.56%

(2021年4月1日時点)

法定雇用率 2.3%を上回る障がい者雇用を実施しています

外国人雇用

技術・専門知識を有する外国人を、国籍を問わず採用できる活動を推進しています。



**「3つのL」で一人ひとりが自分の色
で輝き続けられる職場を目指します**



ガバナンスの強化



コーポレート・ガバナンス強化による公正、透明、迅速なグループ全体のガバナンスの推進

取締役会

- 社外取締役の増員
(2名→3名)



- ・ 社外取締役
3分の1超による
取締役会の
ガバナンス強化

- 初の女性社外取締役
の選任



- ・ 多様性の確保

役員研修会



≪2020年度 研修テーマ≫

- 投下資本利益率 (ROIC) について
- 競争法について

≪2021年度 研修テーマ≫

- サステナブル経営について
- 経営分析について

次世代経営者育成

会計監査人の異動

同一法人による監査年数が長期にわたっていることから、会計監査人の評価・見直しを実施

- ・ 従来とは異なる視点や手法による
監査の期待

本資料は、当社グループの業績等についての一般的な情報提供を目的とするものです。本書に含まれる予測、予想、計画その他の将来情報は、当社において利用可能な情報に基づく現時点における当社の認識又は判断に基づくものであり、実際の結果はこれらの情報と大きく異なることがあります。また、当社は、本資料に記載された情報に変更又は更新があった場合にも、その内容を提供又は開示する義務を負うものではありません。



連絡先

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
コーポレート室（広報）
Tel : 075-312-1214
<https://www.gs-yuasa.com/jp>

【参考】 情報発信（メルマガ）

株主・投資家情報サイトの「IRメール配信登録」から登録できます。決算や説明会、ニュースリリースなど当社のIRに関する有益な情報を発信しています。

The screenshot shows the Investor Relations website with the following content:

- Home > Shareholder & Investor Information
- Shareholder & Investor Information / Investor Relations
- IRトピックス
- 決算短信 [2022年3月期 第2四半期] (PDF 826KB)
- 決算説明会資料 [2022年3月期 第2四半期] (PDF 5.0MB)
- 決算説明音声・動画 [2022年3月期 第2四半期] (MOVIE) 2021年11月15日開催
- 現在の株価: 2,333円 (-28(-1.19%))
- IRニュース: 2021.11.30 株主のみなさまへ(第18期 第2四半期 決算のご報告)を掲載, 2021.11.30 「インベスターズガイド2021」を更新, 2021.11.29 コーポレート・ガバナンス報告書を更新
- アクセスランキング: 1 決算説明会資料, 2 決算短信, 3 ファクトブック
- IRカレンダー
- IR情報一式ダウンロード
- IRメール配信登録 (highlighted in a red box)

こちらから
ご登録できます。

【参考】2022年度業績予想



	2021 年度 実績	2022 年度 予想	(億円) 増減
売上高	4,321	5,200	+879
営業利益 (営業利益率)	227 5.2%	280 5.4%	+53 +0.2P
のれん等償却前営業利益 (のれん等償却前営業利益率)	239 5.5%	290 5.6%	+51 +0.1P
経常利益	247	280	+33
親会社株主に帰属する当期純利益 (当期純利益率)	85 2.0%	120 2.3%	+35 +0.3P
のれん等償却前親会社株主に帰属する 当期純利益 (のれん等償却前当期純利益率)	95 2.2%	130 2.5%	+35 +0.3P
ROE (自己資本利益率)	4.6%	-	-
年間配当金	50円/株 (予定)	50円/株 (予想)	±0円/株
自己株式買入額 (次年度予定額)	-	-	-
総還元性向	42.4%	-	-
国内鉛建値 (万円/t)	31.64	34.1	+2.46
LME (US\$/t)	2,283	2,300	+17
為替 (円/US\$)	113.04	120.0	+6.96

(注) ROEおよび総還元性向は、のれん等償却前当期純利益に対するものです。

【参考】2022年度業績予想（セグメント別）



(億円)

		2021年度 実績		2022年度 予想		増減	
		売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:%)	売上高	営業利益 (利益率:P)
自動車電池	国内	815	59 (7.2)	920	50 (5.4)	+105	△9 (△1.8)
	海外	1,867	100 (5.3)	2,360	140 (5.9)	+493	+40 (+0.6)
産業電池電源		995	58 (5.8)	1,080	90 (8.3)	+85	+32 (+2.5)
車載用リチウムイオン電池		476	17 (3.5)	700	10 (1.4)	+224	△7 (△2.1)
特殊電池およびその他		168	6 (3.4)	140	0 (-)	△28	△6 (-)
合計		4,321	239 (5.5)	5,200	290 (5.6)	+879	+51 (+0.1)

(注) 営業利益はのれん等償却前営業利益、営業利益率はのれん等償却前営業利益率です。